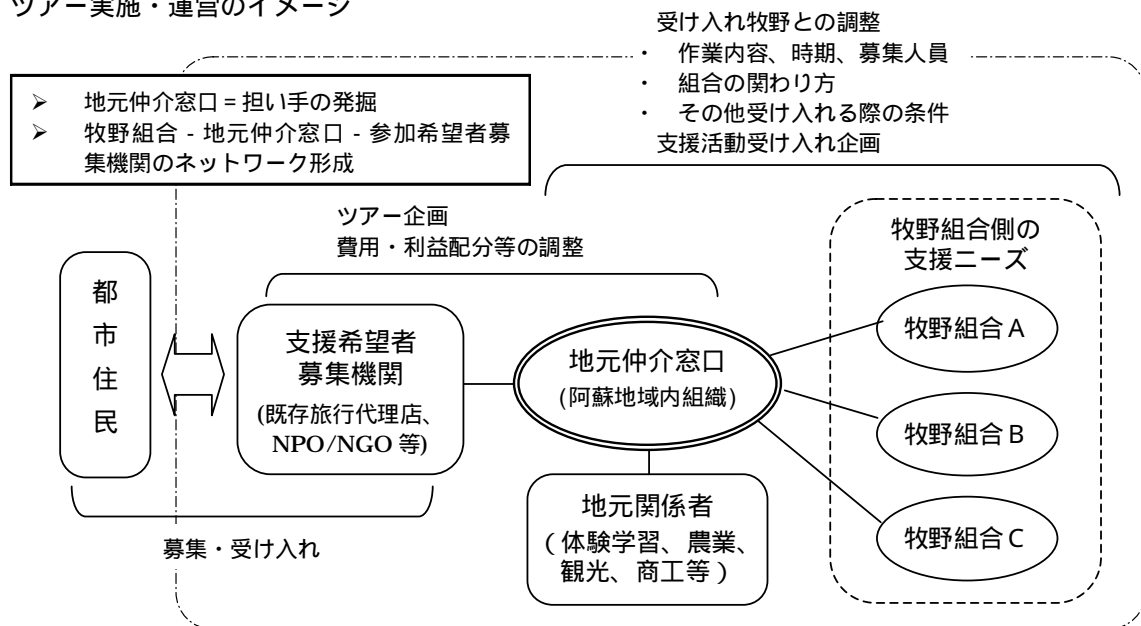


5 - 1 「都市住民による草原維持活動支援モデルツアー」実施報告

1. 「草原維持活動支援ツアー」の趣旨

牧野組合による阿蘇の草原利用及び維持・管理の活動は人手不足が深刻であり、手伝いを必要とする組合を支援する仕組みづくりが必要と思われる。その際、(財)阿蘇グリーンストックが行っているような特定のボランティアによる組織的な支援だけでなく、「支援ツアー」という形での個人的な支援活動への参加・受け入れについても可能性をさぐり、道筋をつけたいと考えている。「支援ツアー」が実際にどの程度役立つのか、地域側でどんなことを準備すればより多くの人が手伝いに来たいと思うようになるか、などわからない点も多いため、ツアーを試行的に実施するなかで、問題点や課題を洗い出したいということからモデルツアーを実施した。

ツアー実施・運営のイメージ



2. 「モデルツアー」実施状況

ツアー試行にあたっては、作業部会を設置して募集、実施方法などを検討するとともに、阿蘇たにびと博物館を受け入れ窓口として、以下の3牧野で実施した。

実施地	実施日	参加人数	作業内容
一の宮町 / 町古閑牧野	H16年10月9日(土)~10日(日) 天気: 小雨	1日目、2日目: 男性3、女性3	牧柵修理(鉄条網の張り替え)
白水村 / 池の窪牧野	H16年10月17日(日)~18日(月) 天気: 晴れ	1日目: 男性5、女性3 2日目: 男性3、女性3	採草手伝い(集草、稲手による結束、小積み、コンパクトのトラック積み込み)
一の宮町 / 木落牧野	H16年10月23日(土)~24日(日) 天気: 晴れ	1日目: 男性3.5、女性4 2日目: 男性5、女性5	電気牧柵撤収 採草手伝い(集草、稲手による結束、トラック積み込み、コンパクトのトラック積み込み)



日程や募集方法、参加費の設定、受け入れ体制など様々な課題はあるものの、参加者からは「いい経験になった」「阿蘇の草原のことがわかってよかった」など、組合側からは「思ったよりよく働いてくれて助かった」「来年も来て欲しい」などの意見が寄せられ、維持活動支援ツアーへのニーズはあるということが確認された。



・集草手伝い / 池の窪牧野



・結束・集草作業 / 木落牧野

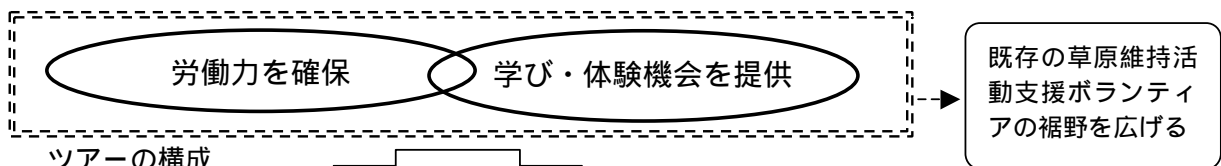


・作業後の交流会 / 町古閑牧野

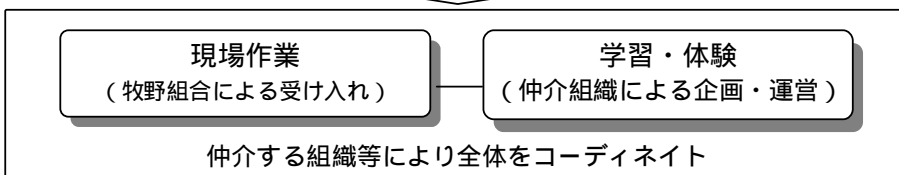
3. 今後の展開に向けて - 展開方策の一例

今後、取り組みを継続していく際には、無償ボランティア（現場作業＝実務性追求）と学び・体験（普及性追求）の2タイプのプログラムを日程・実施主体を区分しつつ、1つのツアーとして企画することで、草原維持に向けて意味のあるかたちで実施可能と考えられる。

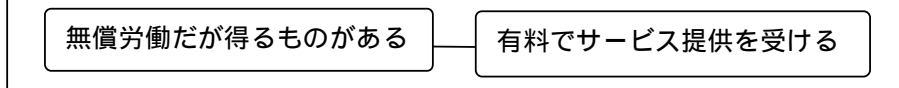
ツアーのねらい



ツアーの構成



利用者にとって



ツアーを成立させるための課題

